

昨年9月24日久しぶりの部会に集まってみたら、男女共学に関わる動きが次々確認されて、その経過を「フォーラムNEWS」に掲載してもらおうということになりました。「フォーラムNEWS」No.7（2011・1月発行）に「『県立高校の在り方（報告）』批判学習会の報告」が載りましたが、その後群馬県教育委員会は、2011年3月「高校教育改革推進計画」を策定し、4月より実施になりました。

一 新聞報道による県内の動き（2011年）

- 1 「沼田高と沼田女高同窓会が存続求め 県に要望書」（上毛5・27付）
- 2 「県教委の高校再編計画から10年 進まぬ共学化 難題」（朝日6・30付）
- 3 「利根沼田5高校再編 完全統合／共学 理数コース／規模縮小し存続 沼高、沼女は3案 県教委が地元提示 年度内に方針」（上毛7・29付）
- 4 「5男子高同窓会 知事に存続要望」（上毛7・29付）
- 5 「『女子高存続を』知事らに同窓会長」（朝日8・25付）

以上の1～5の「 」は見出しです。

次の①～⑤はそれぞれの記事の抜粋です。

- ①沼高同窓会長は「男女別学は伝統がある。少子化対策としての共学化は受け入れられない」と訴えた。池本副知事は「いろいろな意見を聞き、議論を深めたい。きょうの意見も含め、引き続き検討する」と答えた。
- ②県内の公立高校（中高一貫含む）は71校で、うち男子高7、女子高9。3県の中で最多だ。…元沼女同窓会長は「伝統ある北毛の中心校で、卒業生が地域をもちたててきた。別学には別学の良さがある。共学がいいなら全県一斉にすべきで、前橋や高崎から始めればよい」と話す。
- ③県教委は再編案を市町村長や教育長、高校同窓会長、商工団体代表などで構成する「利根沼田地区の高校 在り方に関する懇談会」に提示するとともに、各団体に9月末までの意見集約を要請した。
- ④県立男子5高校の同窓会長らが28日、拠点校を統廃合することなく存続させるよう求める要望書を提出した。「別学か共学かを選ぶ選択権を奪う」として、全ての高校を一律に共学化しないことも求め

ている。要望書は前橋、高崎、太田、渋川、沼田の同窓会長名で…。高校再編にあたっては、同窓会との協調と対話も不可欠だとした。

- ⑤要望書を出したのは、前橋女子、高崎女子、桐生女子、太田女子、沼田女子、館林女子、渋川女子、富岡東の各女子高の同窓会長。「女子高校での女子教育の充実と推進は重要」「すべての学校の男女共学化は子どもや保護者の選択権を奪う」などとしている。

二 「ぐんま公立高校の男女共学を実現する会」の動き

「実現する会」は2000年に発足しています。2011年5月「関東3県共学推進ネットワーク」が設立総会を開いて、正式にスタートしました。設立の趣旨は、公立高校に別学校があるのは全国で3県のみとなった今、「共学ネット・さいたま」「栃木共学ネット」「ぐんま公立高校男女共学を実現する会」が力を合わせて、3県のすべての公立高校の共学化を一日も早く実現することです。12月4日大宮市でキックオフイベントの学習会が開かれ、東北大学高橋満教授の講演「宮城県における高校の男女共学化」をお聞きしその後交流。共学部会からは2名が参加しました

三 感想など

「実現する会」の内藤和美代表が上記2（朝日6・30付）の記事で「公立高が性別によって応募資格を制限することが社会的に公正なのか。3県とも進学校に限定していることも問題だ」と述べています。「伝統」「拠点校」や「女子教育」にこだわる同窓会の綱引き相手は、「女子差別撤廃条約」や「男女共同社会参画法」に未来を描く日本社会や国際社会ではないでしょうか。